

県立高校に芸能科をつくる「SPZ48」計画や、博多に昨秋誕生したAKB48の姉妹グループ「HKT48」のオーディションレポート、そして総合プロデューサー・秋元康さんへのインタビュー。これまでモテモテさがは、アイドルに挑戦する人たちのパワーをなんとか、佐賀の街を面白くすることに活かせないか、と提案を続けてきた。今回の特集では、いよいよ総本山である東京・秋葉原のAKB48劇場への取材を敢行。中心メンバーでもある大島優子さんと板野友美さんに、これからアイドルを目指す佐賀の女の子へのエールをもらった。また、本格始動したHKT48の劇場公演もレポート。すぐ近くにある目標を確認することで、若さの可能性を再認識した。

アイドルを育成することを通じて、いろんな人の夢見る力を育てる。がむしゃらで前向きなエネルギーは周りの人にとんだん伝わっていく。「AKB現象」には、そういうポジティブな共感が溢れている。佐賀の街に「夢見る力」を持つ人々が増えれば、きっと街は面白くなるはずだ。

力で 夢見る 街は変 わる!!



AKB48劇場潜入

昨年、レコード大賞を受賞したAKB48。その原点であり、今も活動の中心となっている東京・秋葉原AKB劇場に潜入。熱い公演の様相取材した。

JR秋葉原駅を降りて、すぐ目に飛び込んできたのが「AKB48カフェ&ショップ」。選りすぐりの公演映像を見ながら料理が食べられる「シアターエリア」やAKB48にちなんだスイーツ盛りだくさんの「カフェエリア」。限定商品など魅力的なグッズを揃えたショップなどがある。店内にはAKB

48メンバーの直筆「落書き」や仕掛けが隠されているなど、遊び心いっぱいだ。劇場に行く前に気分が盛り上がる。ちなみに隣にはガンダムカフェもある。

ドン・キホーテ8階

メイドさんの恰好をした喫茶店ス

トップやに声優の写真で全面ラッピングされた車など、秋葉原らしい風景を横目に一路、AKB48劇場へ。めざす会場は「ドン・キホーテ」の8階だ。途中のフロアではなぜか巫女さんの衣装が売ってあった。

劇場に到着すると、プラチナチケットをゲットした観客の列が。平日の火曜日というのにすごい熱気だ。想像以上に女性が多い。高齢の方もいらっしやうて、かなり幅広い客層だと感じた。ピンゴで入場順を決めて、いよいよ中へ。想像していたよりも狭い。舞台が近い印象だ。この日は今年初めてとなる、チームK「RESET」公演。秋元

才加さんや大島優子さん、板野友美さんなど、テレビで活躍しているメンバーもいて、去年は全員が揃うことが少なかったというが、この日はフルメンバーだ。画面の中にいたアイドルが

こんなに近くで見れるとは…。期待が高まる。

「前座ガールズ」が観客を温めた後、恒例の「overture」が会場に響く。観客の一条乱れぬコール。さすが総本山だ。そして全員が登場。「RESET」から4曲、ノンストップで歌い上げる。圧巻のパフォーマンス。客席に視線を投げたり、緩急のある動きだったり、観客の心をわしづかみにする。さすが結成7年目の貫禄である。

メンバー生誕祭に感動

「制服レジスタンス」からの第二パートは少人数でのパフォーマンス。それぞれの特性を生かし、典型的なアイドルソング「逆転王子様」もあれば、ダンスが特徴的な「軌跡は間に合わない」なども。再び「毒蜘蛛」からは全員が登

AKBをめざす女の子へエール

大島優子さん



アイドルとして成功するためには何が必要か。そして、その先には何が待っているのか。公演終了後にAKB48の主要メンバーとして、テレビや雑誌で活躍する大島優子さんと板野友美さんに話を聞いた。

— AKB48の今の成功は、同世代の女の子たちと何が違ったからだと思いますか。

大島さん…何も変わらないと思います。夢を追いかけるのは同じじゃないでしょうか。ただ勇気が足りなかったり

可愛くなろうという努力必要

とかはあると思います。AKB自体も最初は名も無いところから始まっています。こんななるとは思っていません。内容の漠然としたチラシに惹かれて、みんな集まってきた訳です。

— 内容の漠然としたチラシ？

大島さん…白黒の半ページのもので、秋元さんが関わっているプロジェクトだと書かれていました。オーディション雑誌の中に掲載されていたり、街中で配られたりして。

— アイドルを目指したきっかけは、そのチラシだったと。

板野さん…昔からSPEDさんに憧

れていて。小さいときにダンスを習っていて、歌手になりたいと思っていました。中学生になってからいったん止めたんですけど、やっぱり夢を追いかけていたい、と考えていた時に、そのオーディションの情報を見ました。

大島さん…私は子役出身だったので、芸能界を止めようかな、と思っていました。AKBのオーディションの情報があって、最後の賭けとして受けました。

板野さん…オーディションの時は中学生でした。母親と妹と会場に行って、あまり、そういうものに参加したことがなかった。ダンスのオーディションは経験があったんですが、アイドルのものはなかったんです。写真を撮られたりして緊張しました。

大島さん…オーディションでは、みんなが一つの控え室に集まって、歌やダンスの練習をしていたんですけど、合格しそうな人は目立っていましたね。あっ、この子やっぱり受かった、と思った記憶があります。会場でも空気が違うというか。

— 劇場デビューまで、たくさん練習を積み重ねたと思いますが、その頃の思い出を聞かせてください。

板野さん…ダンスの経験はあったんですが、アイドルの振り付けをやったことはなかったのが苦痛でした。先生に、ヒップホップ調に踊りすぎるから、それじゃアイドルのダンスじゃない、と指摘されて。どうやって踊ればいいのか、と悩みました。リズムの取り方が違うし、歌詞に合わせて動かな



あくまで「会いに行けるアイドル」

場して舞台はより加速していく。圧倒的なのは、セクシオンことに入るトク。紅白の裏話や正月の過ごし方、今年の目標まで、適度なツッコミが入りながら展開される。ここではちよっと書けません。本当に面白かったです。

アンコールが終わった後、メンバーから「ちよっとまった」コール。1月

3日に誕生日を迎えた梅田彩佳さんの生誕祭を行うというのだ。客席からは大歓声。舞台袖から運ばれた大きなケーキに灯されたロースクの火を、劇場一体となった「ハッピーバースデー梅ちゃん」の歌とともに吹き消す梅田さん。

そして読み上げられる梅田さんのお父さんからの手紙。梅田は北九州出身。

オーディション合格から、上京する娘を見送るとき的心情。そして今…。ついつい感情移入してしまう。そして、梅田から感謝の言葉。この日は「梅田推し」のお客さんがお揃いのピンクのトレーナーを着ていたが、このデザイには本人も加わっていたこと。生活費を削って支えてくれるファンへの感謝。そして、自分を応援して良かった

と思ってもらえるように頑張るという決意表明。

最後はハイタッチ。全てのメンバーが参加する。原点を忘れない。あくまで「会いに行けるアイドル」であり続ける。だからこそ、応援したくなるのだろう。そういう物語の一つひとつが最高のアイドルグループを形づくっている。



「モテモテさが」2011年8月号でレポートしたHKT48最終オーディションから約4カ月。11月26日に初公演を行った21人は、福岡市のホークスタウン内にある専用劇場でほぼ毎日、舞台上に立ち続けている。公演から約1カ月が経った12月下旬、取材に潜入したモテモテさが編集部前に現れたのは、4カ月前とは別人の、元気オーラ溢れる「アイドル」たちだった。

福岡ドームに隣接したホークスタウンモールの3階。夜間に煌々と輝く「HKT48 THEATER」のネオンサイン

ン。平日というのに、すでに入場待ちの人の列が出来ている。劇場の定員は300人。一般枠の他に、福岡、佐賀、熊本以外の対象の「遠方」枠（遠くは北海道から来る人も）や「ファミリー・カップル」枠、「女性・小中学生」枠がある。チケットは抽選になっており、まさにプラチナチケット。キャンセル待ちの人も多い。

入場順は「ランダム」

購入方法は以下の方法で。ネット上のHKT48劇場チケットセンターで応募。観望希望日2日前の12時までに抽選を行い当落結果を通知される（遠方枠は異なる）。公演日当日2時間半前から劇場窓口で購入する。手荷物を預け開演30分前にロビーに集合し、整理券ごとに列をつくる。入場順はビンゴで決定。整理券番号を10人1組にして会場に入る。スタンプが数字を読み上げることにロビーに歓声が上がる。お気に入りのメンバーを推しメンのダンスポジションを念頭に入れて場所とりするという。入場できなかつた人もロビー内に設置された大型スクリーンで無料鑑賞できる。

会場に入る。足元は広くゆったりしている。出来たての舞台は、秋葉原以上の最新設備という。客席中央には花道と先端ステージがあり、それを取り囲むように席が作られている。開演前アナウンスはメンバーの持ち回り。たどたどしいしゃべり方が新鮮だ。暗転。会場に響く音楽「Overture (HKT48 ver.)」だ。ステイックライトを振りまわしながらファンの声援。すごい熱気だ。

板野友美さん



きゃいけないし。可愛い感じにするのに戸惑いました。
—振り付けを覚えるだけでも大変なのに、ボジションも変わる。対応するのが大変じゃないですか。
板野さん…歌番組などは、直前に立ち位置が変わったりしますね。すぐに忘れちゃうけど。
大島さん…そのときだけだったりするので、一瞬で覚えて忘れてという感じですね。いらぬことはほとんど抜けてくようにしないと、とんとん溜まっていってしまうので。
—AKBに入る前と現在では何が変わりましたか。
大島さん…人生が変わりました。自身の中身としては、同世代の人とは感覚が違うな、と感じることもありま

アイドルの振り付けに一苦労

必要だと思えます。
板野さん…自分を磨くこと。
大島さん…毎日、舞台上に立って、人に見られているので、そういう風に映るのか、すごく気にしています。自分を追求することが必要だと思えます。AKBの活動を通して、同世代の人に、夢を追いかけ続けることの大事さと、頑張ればそれが叶うということが伝わればいいと思います。
—最後に、佐賀について。印象は？
大島さん…はなわさん！段ボールに佐賀のりって書いてあるのをよく見ます。有明産ですかね。
板野さん…行ったことがないので行ってみたいですね！
大島さん…ライブツアーとかで行けたらいいな…

4カ月でアイドルに!!



バ 応募プレゼント

〒840-0826
佐賀市白山2丁目7-1エスプラッツ3F
佐賀新聞文化センター
モテモテさが編集部
「MOTEMOTE
さがプレゼント係」まで
メール/info@motemote-saga.jp

住所・氏名・連絡先をご明記の上、上記の宛先までハガキまたはメールでご応募ください。
※2月29日（水）消印有効



AKB48
オフィシャル
カレンダーBOX

2名様

AKB48 大島優子さん
板野友美さん

サイン入り
クリアファイル



各2名様

チケット購入から劇場まで

STEP1 公演日と希望のチケット種別を選ぶ。

公演チケットは下記の種類・限定枚数にて販売。

- チケットの種類と当選枚数
- 1. 一般……260枚
- 2. 遠方（福岡・佐賀・熊本以外に在住）……20枚
- 3. ファミリー・カップル……10枚
- 4. 女性・小中学生……10枚

STEP2 <http://ticketcenter.aks48.com/hkt48/> HKT48劇場チケットセンターにて無料会員登録後、各項目を入力し応募。（チケットの種類によって応募受付期間・当落発表時間が異なる）

当選した人は、開演時間の30分前までにチケット購入列に並び、チケットを購入。
 応募受付—観覧希望日の3日前 0:00～20:00
 当落発表—観覧希望日の2日前12:00までに抽選を行い、当落結果を通知

STEP3 当選した人は、公演当日にHKT48劇場窓口にてチケットを購入

当選番号と本人確認のための顔写真付き身分証明書を持って公演日当日・開演2時間30分前より劇場窓口にてチケットを購入。（時間外購入および代理人購入はダメ）※必ず一点は漢字表記の身分証を持参。

STEP4 入場

- 開演30分前までに手荷物を預けロビー内の指定場所に集合。購入チケットに記載されている整理券番号順に並び。
 ※整理券番号は購入順に番号を発行。
- 指定席のお客様入場後、一般席のお客様入場抽選入場順を決める「抽選会」を行う。「抽選会」により入場する順が決定。
 ※整理券番号順の入場ではない。

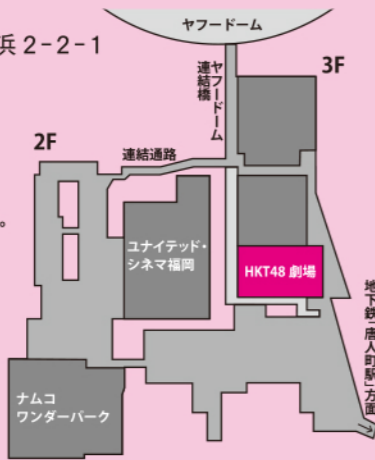
ACCESS

ホークスタウンモール内

〒810-8662 福岡市中央区地行浜 2-2-1
 TEL：092-833-8848

営業時間（休館日除く）
 平日…16:00～21:00
 土日祝…14:30～19:00

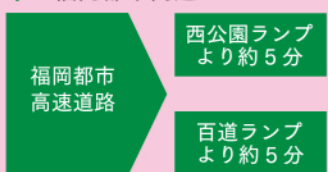
※営業時間は急遽変更する場合があります。予めご了承ください。



地下鉄…福岡市営地下鉄唐人町下車、3番出口より徒歩約15分。



車…福岡都市高速



バス…西鉄バス 天神・博多駅・福岡空港など、各エリアから運行
 出発エリア
 天神
 博多
 福岡空港
 西新
 藤崎

停車バス停
 ・ヤフードーム前
 ・国立医療センター
 いずれかのバス停

HKT
 見たーい



そして登場。「手をつなぎながら」公演のスタートだ。オープニングは「僕らの風」。たった4ヵ月前、オーディションを受けていた少女たちが、大きな声援を受けて舞台上に立ち、元氣いっぱい飛び跳ねている。なんだか感無量だ。彼女たちを引き立てる照明や音響もすごい完成度だ。スモークの中、

顔が見える構成

あと1ミリ あ と1ミリ… 努力が人を変える



七色のスポットライトを浴びて…。アイドルのオーラすら感じる。この日の出演メンバーは16人。全員

でのステージが4曲続き、MC。各ユニットごとに分かれて、それぞれの個性にあったナンバーを歌い踊る。懐か

1ミリ先を…

しきすら漂うアイドル感満載の「ウィンブルドンへ連れて行って」では会場から、超絶かわいい、の声も。一転、アダルトな雰囲気「雨のピアノスト」が続く。曲の合間のMCもリラックスした雰囲気。メンバーの話だとか、最近、気になっていることなど、一人ひとり話していく。全員の顔が見えるので、自然と「推しメン」が決まってくるのだろう。

人間は4ヵ月でここまで変わるものだろうか。いや、初演を見た人に聞くと、その時とても雲泥の差だという。わずか1ヵ月、いや日々少しずつ進化しているのだろう。

「夢は全力で手を伸ばした1ミリ先にあります。自分で1メートル先にあると思って諦めたけど、周りから見たら、あと少しだった、という事もあります。呪文のように『もうちょっと』と唱え続け、気を抜かずに頑張ってください」。7月のオーディションの合格発表の際、総合プロデューサーの秋元康さんが彼女たちに投げかけた言葉が脳裏に浮かぶ。彼女たちはこの言葉を信じて、あと1ミリあと1ミリと、毎日のようにレッスンを続けたのだろう。アンコールの「遠くにも」が終わり、会場に手を振る彼女たちは充実感が溢れていた。

公演が終わると、ロビーにHKT48のメンバーが1列に並び、観客とハイタッチをして見送る。また来たい。素直にそう思えるのは、彼女たちのおかげで、ひらが柔らかかったからだけでは無いと思う。

